

# 年間授業計画

教科・科目		国語表現 [ 2 ] 単位		対象学年・組	二次次生 自由選択科目	
教科書 副教材		国語表現(教育出版) 同 演習ノート(教育出版)	教科担任	川井 裕子・鈴木 信子・辻 黄菜		
指導目標		話す・聞く・書くという表現の各分野について基礎から実践まで学ぶ				
学期	月	単元	予定 時数	具体的な指導内容・指導目標		評価の観点・方法
前 期	中間 考查 まで	I 基礎編 ① 言葉に変える ⑥ 文章表現の基礎 等	1 6	絵や地図をことばに変える作業をとおして、ことばによる表現の可能性と限界を理解し、工夫の必要性を知る。発声・発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。		参加：出席を重視する 活動：課題提出および発表を行う 定着：作品の完成度により評価する その他：授業に臨む姿勢も鑑み、総合的に評価を行う
	学期 末まで	II 実践編 ⑦・⑧小論文Ⅰ・Ⅱ ⑩プレゼンテーションの方法 ⑫話し合いの方法 等	1 6	ことばの性質やことばと人間とのかかわりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。相手や目的に応じて正確で効果的な伝達や表現の方法を理解し、その技術を身につける。		参加：出席を重視する 活動：課題提出および発表を行う 定着：作品の完成度により評価する その他：授業に臨む姿勢も鑑み、総合的に評価を行う
後 期	中間 考查 まで	II 実践編 ⑨論文作成法 ⑪面接 等	2 1	文章の「型」を各種のトレーニングを通して習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。これまで培ってきたコミュニケーションのさまざまな技術をプレゼンテーションにおいて実践するとともに、話し言葉と書き言葉、言語と非言語の違いに気付き、場や道具などがコミュニケーションの重要な要素であるという認識を育てる。		参加：出席を重視する 活動：課題提出および発表を行う 定着：作品の完成度により評価する その他：授業に臨む姿勢も鑑み、総合的に評価を行う
	学期 末まで	III 総合編 ⑭メディア・リテラシー 等	1 6	目的に合わせた話し合いの形式や手法を学び、意思決定や合意形成のための会議の方法とルールを理解する。身の回りのさまざまなメディアについて知り、それぞれの特性をふまえた情報発信とその社会的意味について認識を深める。		参加：出席を重視する 活動：課題提出および発表を行う 定着：作品の完成度により評価する その他：授業に臨む姿勢も鑑み、総合的に評価を行う